

医療職教育機関における模擬患者を含むコミュニケーション教育：平成16年度の教育実践から

大池，美也子
九州大学医学部保健学科看護学専攻

末次，典恵
九州大学医学部保健学科看護学専攻

山本，千恵子
九州大学医学部保健学科看護学専攻

伊東，こずえ
九州大学医療系統合教育センター

他

<https://doi.org/10.15017/3258>

出版情報：九州大学医学部保健学科紀要. 5, pp.101-112, 2005-02-18. 九州大学医学部保健学科
バージョン：
権利関係：



医療職教育機関における模擬患者を含む コミュニケーション教育 — 平成16年度の教育実践から —

大池美也子¹⁾, 末次 典恵¹⁾, 山本千恵子¹⁾, 伊東こずえ²⁾,
長家 智子¹⁾, 渡辺 恭子¹⁾, 北原 悦子¹⁾, 原田 広枝¹⁾,
丸山マサ美¹⁾, 梅村 創³⁾, 寺嶋 廣美⁴⁾

The Communication Skills Training including Role-playing Exercise with Simulated Patients for Students in School of Health Sciences — From Educational Practice in 2004 —

Miyako Oike, Norie Suetsugu, Chieko Yamamoto, Kozue Itou,
Tomoko Nagaie, Kyoko Watanabe, Etsuko Kitahara, Hiroe Harada,
Masami Maruyama, Tsukuru Umemura, Hiromi Terashima

Abstract

The purpose of this study was to explain the effect of a series of lessons in “Communication skills training in medicine”, including role-playing exercise with simulated patients, on 135 students in School of Health Sciences. The questionnaire survey on the evaluation of the lesson was conducted after the lesson, and 70 of the 135 students were valid respondents.

The results of this study indicated that 1) the students had the difficulty of communicating with simulated patients and the importance of communication in medicine, and that 2) this lesson including role-playing exercise with simulated patients was useful and necessary for the medical college students. From these results, we considered three educational themes. The first one was to offer much information of medical situation to the students who had no clinical experiences. The second was to increase so much time that students can experience the role-playing exercise with simulated patients. The third was to use the group-discussion to share the experiential learning such as a role-playing exercise with simulated patients.

キーワード: Simulated Patients 模擬患者, Communication Skills Training コミュニケーション教育, Medical College Students 医療系学生

1) 九州大学医学部保健学科看護学専攻
2) 九州大学医療系統合教育センター
3) 九州大学医学部保健学科検査技術科学専攻
4) 九州大学医学部保健学科放射線技術科学専攻

I はじめに

医療に関わる専門職者にとってコミュニケーションが、重要な課題になりつつある。コミュニケーションにおける医療職者と患者との些細なずれが、医療における不信や不満あるいは大きな誤解となり、医療事故や医療訴訟を招いているともいわれる¹⁾²⁾。また、医療職者間のコミュニケーションにおいても、お互いの役割や使用している専門用語について十分な理解がなされておらず、情報の思い違いから医療事故になることが指摘されている³⁾⁴⁾。その一方、効果的なコミュニケーションは、患者のコンプライアンスを高め、治療成績のみならず医療経済にも影響をもたらす可能性があるといわれる⁵⁾。医療におけるコミュニケーションは、患者の不安や健康問題を理解する手段として、また、医療行為を達成するために不可欠な道具として、これらの技術に関する学びを積み重ねていく必要があるといえる。

医療の専門職者に対する教育の一つとして、看護学教育では、コミュニケーションをあらゆる看護実践の基盤に位置付け、コミュニケーション技術の習得に向けた効果的な教育方法が模索されている⁶⁾⁷⁾。体験学習を中心とした模擬患者⁸⁾やロールプレイング⁹⁾の導入があり、近年ではIT教材を用いた方法も取り上げられるようになった¹⁰⁾。また、医学教育においては、上記の体験学習とともに、平成17年度よりOSCE (Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験)による面接技法が予定され、それらの習得が一層強化されつつある¹¹⁾。さらに、臨床検査技師においても、その専門性拡大の視点からコミュニケーション技術の基礎的能力の育成に向けた取組みがあった¹²⁾。各専門領域におけるコミュニケーション教育の導入や探求は、コミュニケーションが自然発生的に獲得されるものではなく学ぶべき課題であることを示すものといえる。

このようなコミュニケーション教育とともに、医療職者間の相互理解と協働に向けて、早期体験実習や模擬患者演習なども医療職者に対する教育に導入されつつある¹³⁾¹⁴⁾。これらの教育体験は、

お互いの職種に対する具体的イメージが可能になるとともに、他職種の専門性に対する気づきも深まるといわれる¹⁵⁾。チーム医療や患者中心の医療が提唱されるなかで、各専門領域を越えた教育実践が拡大しつつある。

当保健学科においても、教育の基本理念として「全人的チーム医療に対応する人材」の育成を掲げ、医療における人間理解を目指したチーム医療に関わる授業科目を開講している。本論では、そのような教育実践の一つである保健学科三専攻共同の授業科目「医療とコミュニケーション」の学生の評価から、今後の教育的課題を明らかにすることを目的に報告する。

II 本授業「医療とコミュニケーション」の概要

1. 授業の位置付け

「医療とコミュニケーション」は、当保健学科三専攻(検査技術科学専攻,放射線技術科学専攻,看護学専攻)を対象とした医療系基礎教育科目の一つであり、専門教育が開始される2年次前期に実施した。臨床経験のない2年次学生を対象としたため、「話を聴く・聞く」、「話をする」という日常性に注目しながら、医療におけるコミュニケーションの意義を主な講義内容として進めた。なお、本授業の学習目標は以下の通りである。

- ① 人間関係づくりの基盤になるコミュニケーションの意義を理解する。
- ② 日常生活におけるマナーとコミュニケーションとの関わりを説明できる。
- ③ コミュニケーションの構成要素とコミュニケーション過程を理解し、その具体的内容について説明できる。
- ④ 体験学習を通じて自己のコミュニケーションを振り返り、自己の課題を見出すことができる。
- ⑤ 医療におけるコミュニケーションの特徴を列挙し医療人としての自己を深めることができる。

2. 授業の実際(図1)(表1)

本授業を以下のように「理論編」と「実践編」に大別した。

表1. 「医療とコミュニケーション」の授業内容

回	項目	方法・教材など	
1	オリエンテーション・コミュニケーションの概要	講義	資料・図書*
2	日常生活・医療に関するコミュニケーションの概要	講義・発問形式	資料・図書*
3	日常生活・医療に関するコミュニケーションの概要	講義・発問形式	資料・図書*
4	日常生活・医療に関するコミュニケーションの概要	講義・発問形式	資料・図書*
5	コミュニケーションと看護	講義・発問形式	各専門領域の教育による医療の現場とコミュニケーション
6	コミュニケーションと検査	講義・発問形式	各専門領域の教育による医療の現場とコミュニケーション
7	コミュニケーションと放射線	講義・発問形式	各専門領域の教育による医療の現場とコミュニケーション
8	医療におけるコミュニケーションの課題解決への実践	グループワークに向けたオリエンテーション	
9	医療におけるコミュニケーションの課題解決への実践	グループワーク レポート作成	ウォーミングアップ教科書内容を参考とした実践：話を聴くこと
10	医療におけるコミュニケーションの課題解決への実践	グループワーク レポート作成	ウォーミングアップ教科書内容を参考とした実践：開かれた質問と閉じられた質問
11	医療におけるコミュニケーションの課題解決への実践	グループワーク レポート作成	模擬患者による演習 模擬患者によるフィードバック
12	医療におけるコミュニケーションの課題解決への実践	模擬患者演習・グループ同士のフィードバック お互いのビデオ鑑賞と意見交換	
13	医療におけるコミュニケーションの実践の振り返り	グループによる発表・まとめ	

*使用図書：マーガレット・ロイド／ロバート・ボア著

『事例で学ぶ医療コミュニケーション・スキル～患者とのよりよい関係のために～』西村書店，2002

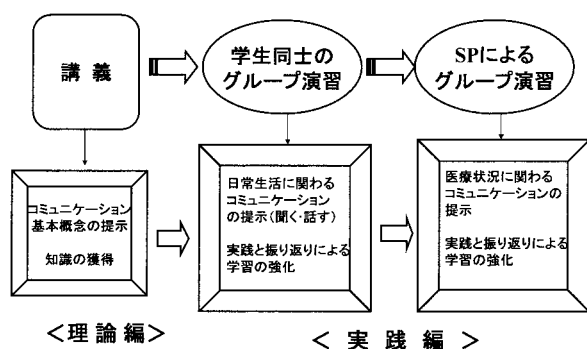


図1. 授業の流れ

<理論編>医療とコミュニケーションに関する教科書および教員作成の資料を用いた。コミュニケーションに関する基本概念の説明とともに、三専攻の教員3名が臨床におけるコミュニケーションについて講義を行った。

<実践編>三専攻の学生を混合した8～9名によ

る16グループ編成とし、「話を聴く・聞く」を中心としたグループ演習と模擬患者による演習を行った。演習では、複数グループを三専攻の教員が担当し、ファシリテータとして参加した。また、円滑なグループ活動に向けて、グループメンバーの役割をリーダーや模擬患者の実演者などに分担した。

1) 学生同士によるグループ演習(表2)

話を聴くこと・閉ざされた質問・開かれた質問に関する課題を設定し、各グループによるロールプレイングを行った。その後、ロールプレイングの体験に関するグループ討議を行い、振り返りとして各自がレポートを作成した。

2) 模擬患者による演習(表3)

模擬患者による演習は病院内で患者が道を尋ねるなど日常生活とも関連づけた課題6場面を設

表2. 学生同士のグループワーク演習課題 注1)

	テーマ	インタビューを受ける人	インタビューをする人	質問内容例注2)
1	話を聴くこと： 1回目	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューを受ける立場から、あなたが答えていることを興味をもって相手が聞いているかどうか観察する。 ・相手の反応をどのように感じたかを覚えておく。 	相手が答えても視線を合わせない。 手足を動かし、落ち着かない様子をする。 相手の話に関心を装って質問を続ける。 相手の反応にうなずかない。	どこに住んでいますか。 趣味は何ですか。 好きな食べ物は何かですか。 嫌いな食べ物は何かですか。 その他
	話を聴くこと： 2回目		相手が答えたら視線を合わせる。 相手の話にうなずく。 相手の言葉を繰り返してみる。	
2	閉ざされた質問	相手から質問がきたら、イエス、ノーまたは一言二言で答える。説明したり、話を続ける事は避ける。	インタビューを受ける人の日常生活についてできるだけ多くの情報を得る。	今日の朝、6時に起きましたか。 今日の朝、パンを食べましたか。 あなたはパンが好きですか。 今日、友達と会う予定がありますか。 その他
	開かれた質問	質問内容を考えながら答える。		どのような方法で学校に来ていますかどのように思いますか。 もう少し話を聴かせてください。 それはどうしてでしょうか。 その他

注1) 授業の使用図書『事例で学ぶ医療コミュニケーション・スキル』を参考に演習課題を作成した。

注2) 本研究者らが質問を考案し準備した。

表3. 模擬患者演習の課題

グループ	学生役設定	模擬患者設定
A	患者さんから検査室の前で胸写の撮影のため1時間待っていたが呼ばれないと尋ねられた。	病棟から来た手術前の患者、がんと手術の告知をうけていた。緊張して十分に検査室の場所をきいていなかった。不安を抱えている。胸写に必要なカードを病棟に置き忘れていた。
B		
C	外来待合室を歩いていたら内科外来はどこですかと尋ねられた。	大きな荷物を持ち、外来で入院の手続きをしようとしている患者初めての入院で緊張しおどおどしている
D		
E	廊下を歩いていたら患者さんからMRI検査室はどこですかと聞かれた。	検査のため、●●検査室に行きなさいといわれ、場所もわからないのにと怒っている。また看護師からカルテを持っていきなさいといわれ立腹
F		
GH	電話をかけている人から自宅にかけるがつかないといわれた。	急に退院が決まり、自宅に電話をするが、つながらない。電話番号をメモした紙をもっているがまちがってかけていた。電話のカードを持っている。眼鏡を病棟に忘れてきていた。
MN		
IJ	売店で紙オムツを購入していた患者さんからこれでいいでしょうかと聞かれた	手術に必要な紙おむつを購入しようとしたが、紙おむつはばら売りか袋に入っているものかわからないで困っていた。購入物品が記載された用紙をもっており、そこにはばら売り5枚と記載されていた。
OP		
K	外来待合室にいると面会らしい人から南病棟の山田さんに会いたいのですがと聞かれた。	山田さんが入院しているため、面会にきた。初めてなのでだれに尋ねていいかわからず白衣を来た人に尋ねていた。病室を書いたメモを持っている。
L		

定した。演習前に模擬患者と教員が打ち合わせを行い、模擬患者がその役割を理解する上で必要な患者の背景や心理的状态なども含めてシナリオを検討した。

実際の演習では、グループの1名が代表で模擬患者とのロールプレイングを体験した。これらの内容はデジタルビデオで録画を行い、参加した学生が演習を振り返る教材とした。演習終了後に模擬患者からのフィードバックを行った。その後、撮影したビデオを各グループが視聴し、グループメンバーによる意見交換を行った。また、本演習の総括としてそれらをまとめ各グループによる総合的な発表を行った。

Ⅲ 研究方法

1. 研究の対象

“医療とコミュニケーション”の授業に参加したK大学医学部保健学科135名(看護学専攻65名, 検査技術科学専攻35名, 放射線技術科学専攻35名)の学生を対象に調査を行った。調査項目は、<Ⅰ. 講義室での講義に関する評価(14項目)(以下Ⅰと略す)>、<Ⅱ. 演習に関する評価(14項目)(以下Ⅱと略す)>、<Ⅲ. 講義・演習全体に関する自由記述(以下Ⅲと略す)>とし、ⅠとⅡの各14項目については、「1:全く思わない」「2:あまり思わない」「3:まあまあ思う」「4:大変そう思う」の4段階評価とした。調査は講義及び演習の全プログラムが終了した最終日に行った。

2. 分析方法

ⅠとⅡの調査項目については単純集計を行った。Ⅲは記述された文章を一つの意味を表す文章に区切り、それらの意味内容の類似性・相違性に基づきながら分類し、分類結果からカテゴリー化を行った。分類及びカテゴリーは、授業に関わった3教員が検討した。

3. 倫理的配慮

調査の目的及び本授業の成績には全く影響しないことを口頭と書面において説明し、三専攻の学生の協力を得た。また、調査用紙の回収は回収ボックスを置き調査用紙を自由に提出できるようにした。

Ⅳ 結果(表4)(表5)(表6)

調査用紙の回収数は、計123名(看護学専攻58名, 検査技術科学専攻33名, 放射線技術科学専攻32名)(回収率97%)であり、そのうち70名(看護学専攻40名, 検査技術科学専攻18名, 放射線技術科学専攻12名)(57%)から協力を得た。

Ⅰ. 及びⅡ. の全設問において<全く思わない>という回答はなかった。

Ⅰ. において、<まあまあ思う>及び<大変そう思う>と回答した質問項目は、Ⅰ-1. 今後に役立つ内容の講義であった、Ⅰ-2. 講義は順序だてて整理された内容であった、Ⅰ-3. 講義のテーマ・目的はわかりやすかった、Ⅰ-13. 教員は適切な速さで講義をしていた、Ⅰ-14. このような講義は今後も必要である、の5項目であった。<あまり思わない>と回答した質問項目は、Ⅰ-8. いくつかの教材を組み合わせたい14名(20%)、Ⅰ-10. 専門用語などについては説明があった10名(14%)、Ⅰ-6. 資料やスライドの量は適切であった8名(11%)、Ⅰ-5. 学生の反応を取り上げながら進めていた7名(10%)、などであった。

Ⅱ. では、<まあまあ思う>及び<大変そう思う>と回答した質問項目は、Ⅱ-1. 今後に役立つ内容の演習であった、Ⅱ-6. 実際に体験する意義がわかった、Ⅱ-10. これまでの講義との関連がわかる演習であった、Ⅱ-11. 模擬患者演習の目的・要点がわかる内容であった、Ⅱ-13. 模擬患者演習の流れは順序よく整理されていた、Ⅱ-14. このような模擬患者の演習は今後も必要である、の6項目であった。また、<あまり思わない>と回答した質問項目は、Ⅱ-2. 模擬患者演習前の練習は適切であった23名(33%)、Ⅱ-8. 必要な時に教員に質問できるようになっていた18名(26%)、Ⅱ-12. 演習は実際の医療場面をイメージできる内容であった9名(13%)、などであった。

Ⅲ. では、記述件数が計124件であり、看護学専攻では70件(56%)、検査技術科学専攻では33件(27%)、放射線技術科学専攻では21件(17%)

表4 I 講義について

1 全く思わない 2 あまり思わない
3 まあまあそう思う 4 大変そう思う

I-1. 今後に役立つ内容の講義であった

問1	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	7	33	0
検査	0	0	2	16	0
放射線	0	0	2	10	0
全体	0		70(100%)		0

I-8. いくつかの教材を組み合わせていた

問8	1	2	3	4	無回答
看護	0	5	24	11	0
検査	0	5	11	2	0
放射線	0	4	7	1	0
全体	14(20%)		56(80%)		0

I-2. 講義は順序だてて整理された内容であった

問2	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	17	23	0
検査	0	0	6	12	0
放射線	0	0	8	4	0
全体	0		70(100%)		0

I-9. 具体例・体験談などを入れてわかりやすくしていた

問9	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	9	31	0
検査	0	1	6	11	0
放射線	0	0	6	6	0
全体	1(1%)		69(99%)		0

I-3. 講義のテーマ・目的はわかりやすかった

問3	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	15	25	0
検査	0	0	2	16	0
放射線	0	0	7	5	0
全体	0		70(100%)		0

I-10. 専門用語などについては説明があった

問10	1	2	3	4	無回答
看護	0	7	18	15	0
検査	0	2	10	6	0
放射線	0	1	9	2	0
全体	10(14%)		60(86%)		0

I-4. 興味や関心をもって講義に取り組むことができた

問4	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	15	25	0
検査	0	1	7	10	0
放射線	0	0	7	5	0
全体	1(1%)		69(99%)		0

I-11. 講義目的に応じた豊富な内容であった

問11	1	2	3	4	無回答
看護	0	1	14	25	0
検査	0	0	4	14	0
放射線	0	0	5	7	0
全体	1(1%)		69(99%)		0

I-5. 学生の反応を取り上げながら進めていた

問5	1	2	3	4	無回答
看護	0	5	25	10	0
検査	0	1	13	4	0
放射線	0	1	7	4	0
全体	7(10%)		63(90%)		0

I-12. 教員は明瞭な声と聞き取りやすい話をしていました

問12	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	11	29	0
検査	0	1	4	13	0
放射線	0	0	2	10	0
全体	1(1%)		69(99%)		0

I-6. 資料やスライドの量は適切であった

問6	1	2	3	4	無回答
看護	0	5	24	11	0
検査	0	1	7	10	0
放射線	0	2	10	0	0
全体	8(11%)		62(89%)		0

I-13. 教員は適切な速さで講義をしていた

問13	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	18	22	0
検査	0	0	6	12	0
放射線	0	0	5	7	0
全体	0		70(100%)		0

I-7. わかりやすく工夫した教材を用いていた

問7	1	2	3	4	無回答
看護	0	2	23	15	0
検査	0	2	8	8	0
放射線	0	1	5	6	0
全体	5(7%)		65(93%)		0

I-14. このような講義は今後も必要である

問14	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	8	32	0
検査	0	0	0	18	0
放射線	0	0	2	10	0
全体	0		70(100%)		0

表5 II 模擬患者演習について

1 全く思わない 2 あまり思わない
 3 まあまあそう思う 4 大変そう思う

II-1. 今後に役立つ内容の演習であった

問1	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	5	35	0
検査	0	0	2	16	0
放射線	0	0	1	11	0
全体	0		70(100%)		0

II-8. 必要な時に教員に質問できるようになっていた

問8	1	2	3	4	無回答
看護	0	9	18	13	0
検査	0	4	11	3	0
放射線	0	5	6	1	0
全体	18(26%)		52(74%)		0

II-2. 模擬患者演習前の練習は適切であった

問2	1	2	3	4	無回答
看護	0	14	17	9	0
検査	0	5	7	6	0
放射線	0	4	5	2	1
全体	23(33%)		46(66%)		1(1%)

II-9. 学生が自分で考え行動できるよう教員の配慮があった

問9	1	2	3	4	無回答
看護	0	1	18	21	0
検査	0	2	11	5	0
放射線	0	0	6	6	0
全体	3(4%)		67(96%)		0

II-3. 模擬患者演習の時間は適切であった

問3	1	2	3	4	無回答
看護	0	4	24	12	0
検査	0	0	9	9	0
放射線	0	1	5	6	0
全体	5(7%)		65(93%)		0

II-10. これまでの講義との関連がわかる演習であった

問10	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	13	27	0
検査	0	0	5	13	0
放射線	0	0	4	8	0
全体	0		70(100%)		0

II-4. 模擬患者の演習課題は適切であった

問4	1	2	3	4	無回答
看護	0	2	19	18	1
検査	0	0	10	8	0
放射線	0	1	5	6	0
全体	3(4%)		66(94%)		1(1%)

II-11. 模擬患者演習の目的・要点がわかる内容であった

問11	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	14	26	0
検査	0	0	4	14	0
放射線	0	0	5	7	0
全体	0		70(100%)		0

II-5. 学生間で十分に話し合いながら進めることができた

問5	1	2	3	4	無回答
看護	0	2	19	19	0
検査	0	3	8	7	0
放射線	0	2	6	4	0
全体	7(10%)		63(90%)		0

II-12. 演習は実際の医療場面をイメージできる内容であった

問12	1	2	3	4	無回答
看護	0	6	14	20	0
検査	0	1	8	9	0
放射線	0	2	7	3	0
全体	9(13%)		61(87%)		0

II-6. 実際に体験する意義がわかった

問6	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	10	30	0
検査	0	0	2	16	0
放射線	0	0	1	11	0
全体	0		70(100%)		0

II-13. 模擬患者演習の流れは順序よく整理されていた

問13	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	22	18	0
検査	0	0	10	8	0
放射線	0	0	6	6	0
全体	0		70(100%)		0

II-7. 教員は学生の主体性を尊重していた

問7	1	2	3	4	無回答
看護	0	1	14	25	0
検査	0	1	7	10	0
放射線	0	0	5	7	0
全体	2(3%)		68(97%)		0

II-14. このような模擬患者の演習は今後も必要である

問14	1	2	3	4	無回答
看護	0	0	5	34	1
検査	0	0	0	18	0
放射線	0	0	1	11	0
全体	0		69(99%)		1(1%)

表6 自由記述の分析

数値は記述件数を示す

記 入 例	サブカテゴリー	カテゴリー	小計
7番講での講義をもう少し減らして、グループでの経験とかをもっと増やしたほうがよくなったかなと思います。	グループワークなどの演習を増やしてほしい	1. 授業への要望・提案	41
模擬患者演習がもっとあればいいと思う。	模擬患者演習を増やしてほしい		
講義の時間自体はもっと多くてもよいと思う。	講義時間自体を多くしてほしい		
半期で終わるのではなく通年あるいは2年間ぐらいにまたがるような長期の講義のほうがよいかなと思います。	半期ではなく、長期の講義にしてほしい		
演習が一回しかなかったのもっと回数を増やしたほうがいいと思う。	演習回数を増やしてほしい	1) 演習・授業時間の調整	(16)
模擬患者演習の前にもう少し学生間での演習の時間があってほしい。	模擬患者演習の前の演習時間を増やしてほしい		
もう少し演習の時間がほしい。	演習時間を増やしてほしい	2	
とても勉強になったので一年を通じて行ってほしいと思う。	半年ではなく1年間		
演習者を4人に1人ぐらいにしてほしい。	演習のグループワークを少人数に	2) 演習したい人やたくさんの人が演習できるように少人数のグループワーク	(11)
模擬患者演習はもっとたくさんの方が体験できるようになりたい	たくさんの方が演習できたらいい		
模擬患者演習は・・・実際にやってみたかったなと思いました	自分も演習をやりたい		
一人ずつ実習がしたかったです。	一人ずつ実習をしたい		
自分の力を知るためにぜひ実習したかったです。	自分も演習をやりたい	3	
演習に必要な知識を提供してほしい。例*おむつは2枚で本当に足りるか。	演習に必要な情報を提供してほしい	3) 講義・演習への要望・提案	(8)
もう少し設定を増やしての話がどうなるかもやってみよう。	設定を増やしての話がどうなるかもやってみよう。		
ビデオを撮っていたので各グループの発表だけでなくビデオを見たほうがいろいろと考えることができると思います。	発表より別のグループのビデオも見たかった		
講義中にもう少し具体例があったほうが面白かったと思う。	講義に具体例を増やしてほしい		
模擬患者演習は「見舞い客」という設定だったので「患者さん」のほうがより考えさせられることが多かったのではないかな。	設定は見舞い客より患者がいい	2	
教科書をもっと利用してよかった。	教科書を活用したかった	2	4) 教科書の活用 (2)
先生方からのまとめの時間がもっとほしい。	先生達のコメントをもっと聞きたかった	2	
SPの方からもっと改善すべきことを言ってほしい。具体的などうすればいいのか、またどう悪かったかを詳しく知りたかった。	SPの方の意見を聞きたかった		5) 教員とSPの意見を聞きたいこと (2)
今後のためにさらなる経験が授業を通して行ってほしいと感じた。	授業を通して経験できるようにしてほしい	1	6) 授業の継続 (2)
今後こういう演習をしていきたい。	今後もこのような演習を	1	
いろんな場合に対応するための役に立ちます。	いろんな場合に対応できる	15	2. 実習など将来に向けて役に立ち、ためになること 29
今後につながる演習だったが、	将来に役立つ授業である		
看護の実地的なことは今年4月から勉強を開始し・・・医療とコミュニケーションの講義はすごくためになりました。	ためになった		
実習前のよい経験になったと思う。	実習前のよい経験となった		
日常生活にも応用できる内容だったし今後の生活(仕事)にも活かしていけると思った。	今後の生活に活かせる	12	
講義を受けている間・・・どのように応用できるかわからなかった・・・演習を通じ・・・重要であり医療職者になるためには必要不可欠なもの	医療職者になるためには必要不可欠		
今後、自分が病院で働く上でとてもためになる内容だった。	将来に役立つ授業である	2	
模擬患者・・・演習は講義だけの授業より実際に体験でき考えやすかった。	演習で体験することがよかった	7	3. 模擬患者演習による体験の意義 16
模擬患者演習は・・・印象に残っているいろいろ考えるいい機会になった	模擬患者演習は考える機会になった		
この講義・演習は他の講義よりもさまざまな実感が湧いた。	実感がわいた	3	
演習を実際にするだけで講義のみではなんとなく頭に入っていたこととのギャップを感じることができた。	講義だけでなく演習を行ったことで理解が深まった		
講義で話されたことは演習を通じて・・・自分の力になっていくと思う	実際に演習を行ったことで理解が深まる	6	
充実感と達成感がありました。	充実感と達成感がありました。		
医療職者間のコミュニケーションについてももう少し勉強しなければと思った。	医療職者間のコミュニケーションを勉強しなければ	5	4. コミュニケーションの課題・気づき 12
どんなことに注意すべきかがわかってよかったと思う。	注意点がわかった		
演習をすることによって現在の自分のコミュニケーションの課題を明確にすることができたと思う。	コミュニケーションの課題を明確にできた		
自分達のどこに不足があったり今後の問題点ははっきりしているものだと感じた。	自分たちの不足や今後の問題点が明らかになった	5	
「医療とコミュニケーション」という課題は終わりがいいものだと実感しました。	終わりのない課題と実感した		
気づきが多い授業だったと思います。	気づきが多い授業だった	2	
この授業を通してコミュニケーションの難しさや大切さを改めて実感しました。	コミュニケーションの難しさや大切さを実感した	8	5. コミュニケーションの難しさや大切さ 11
医療職者間のコミュニケーションが取れていなかったで実習の始めのほうはうまくいってなかった	医療職者間のコミュニケーションが取れていなかった		
実際に体験して観察するのは思っている以上にさまざまなことが絡み合っとても難しいと感じた。	実際に演習を行ってみるものの難しさ	3	
違う立場からの意見が聞けて、	いろんな意見がきける	4	
他学科の方と交流が持ててよかった。	他の専攻学生と意見交換できてよかった		
看護専攻の方たちと交流できて看護の人たちが私たちより専門知識を持っていた・・・学生同士のディスカッションがとても有意義	他の専攻学生と意見交換できてよかった	2	
私が緊張せずに演習できたのも私も周りの同じ班の人といい関係を作れたからだと思う。医療チームは大切ですね。	他の専攻学生と意見交換できてよかった	3	
演習に対して最初多少の不安はありました	演習への不安	2	7. 演習への不安と緊張 3
実施者はビデオ撮影をされたり多くの人に見られたい緊張してしまい普段通りの力を発揮できなかったのではないかなと思う。	多くの人に見られながらの演習は緊張する	1	
この授業はとてもよかったと思います。	この授業はよかった	2	8. 授業の評価 3
実際に体験された事例を時々話してくださったのはとてもわかりやすくてよかった。	先生の具体的な事例がためになった		
講義と演習とつながりのあるものだった。	講義と演習のつながりがあった	1	

合 計 124

注) 下線字は放射線技術科学専攻、斜線字は検査技術科学専攻、それ以外は看護学専攻を示す。

であった。カテゴリーは、【1. 授業への要望・提案】41件(33%)、【2. 実習など将来に向けて役立ち、ためになること】29件(23%)、【3. 模擬患者演習による体験の意義】16件(13%)、【4. コミュニケーションの課題・気づき】12件(10%)、【5. コミュニケーションの難しさと大切さ】11件(9%)、などであった。

V 考 察

1. “医療とコミュニケーション” 授業に対する肯定的評価と学習への影響(「 」内は自由記述の記載を示す)

役立つあるいは今後も必要であるというⅠ. とⅡ. の回答結果は、全体として肯定的な評価であり、“医療とコミュニケーション” 授業の意義が確認されたといえる。それとともに、検査技術科学専攻及び放射線技術科学専攻の学生は、質問項目Ⅰ-1, Ⅰ-14, Ⅱ-1, Ⅱ-14において、看護学専攻の学生と同様の回答を示し、三専攻に共通するコミュニケーションへの高い意識が伺えた。このような意識とともに、Ⅲにおいて「他の専攻学生とのいろんな意見交換」があり、単なる相互交流ではなく「看護の人たちが私たちよりも専門知識をもっていたので学生同士のディスカッションがとても有意義だった」(検査技術科学専攻学生)あるいは「私が緊張せずに演習できたのも私も周りの同じ組の人と良い関係が作れたからだと思う」(放射線技術科学専攻学生)と記載があるように、お互いの専攻を超えた理解と協同に向けた機会になりうるものと思われた。

また、本論では「医療とコミュニケーション」の学習効果については触れていないが、Ⅲにおいて【4. コミュニケーションの課題・気づき】や【5. コミュニケーションの難しさと大切さ】があり、本授業の学習目標④体験学習を通じて自己のコミュニケーションを振り返り、自己の課題を見出すことができる、に関わるものと思われた。また、これらのカテゴリーは、コミュニケーションが自然発生的なものではなく、学ぶべきものとして認識されたともいえ、「日常生活にも応用できる内容であったし、今後の生活(仕事にも)活

かしていけると思った」(検査技術科学専攻学生)という記載が、今後のコミュニケーションの習得に繋がる学習効果と思われた。

2. 模擬患者演習による学習への影響と今後の課題

模擬患者による演習については、設問Ⅱ-6やⅢで取り上げられたカテゴリー「模擬患者演習による体験の意義」から、本演習における体験学習の意義が伺えた。このような模擬患者による学習は現実に近い状況を提供するため臨場感があり¹⁶⁾、「他の講義よりもさまざまな実感が湧いた・・・机上で勉強していてもわからないことをたくさん知ったと思う」(検査技術科学専攻学生)という記載があるように、情意領域の学習に繋がるものと思われた。しかし、Ⅱ-2やⅡ-3あるいはⅡ-12に指摘されているように、臨床経験のない学生にとって、病院環境のイメージや入院手続きなどに関する情報の不足があり、難易度の高い演習課題であったことが伺えた。模擬患者演習のシナリオや演習課題は本授業の学習目標と関連づけながら作成したが、学生の準備状態を加味し臨床に近い状況設定の演習課題の工夫が今後の課題と思われた。

また、Ⅲにおいて【2】演習したい人やたくさんの方が演習できるように少人数のグループワーク」という記述もあり、本演習への積極的な姿勢や体験から学ぶことへの期待が伺えた。その一方、【7. 演習への不安と緊張】の記述が3件あった。自己確立の発達過程にある三専攻の学生にとって、ロールプレイングなどの自己を提示していく演習は不快感をもたらす可能性もある。3件という少ない記述件数ではあるが、臨地・臨床実習や専門職者としての意識への影響を踏まえ、このような感情や負担を配慮しながら授業を進めることが不可欠と思われた。

さらに、Ⅲの【授業への要望・提案】は、調査項目Ⅱ-2. やⅡ-3. に関連するものであり、演習時間及び模擬患者の人数が課題と思われた。模擬患者演習は16グループを8グループずつ前半と後半に分けて行ったが、前半グループは模擬患者演習を授業開始後すぐに行ったため、練習時

間の不足があった。演習に向けたグループワークも円滑に進めることができず、前半グループと後半グループにおいて演習参加の程度に差が生じたものとも思われた。異なる専攻によるグループのまとまりや演習の心理的負担を考慮すると、グループ演習についてはゆとりある時間を調整することが必要であった。また、模擬患者数については、学生が指摘するように多くの学生に体験できる機会を提供することが望ましいが、授業時間数や模擬患者への謝金など現実的な制限がある。これらの制限に対応するには、演習状況の撮影を教材として活用していくことやグループワークの活性化など模擬患者演習による体験が、共通した学習に拡大できる授業展開が必要と思われた。

Ⅵ まとめ

K 大学医学部保健学科 135 名に対し、模擬患者による演習を含めた“医療とコミュニケーション”の授業を行った。講義及び演習に対する授業評価を行い、計 70 名（看護学専攻 40 名、検査技術科学専攻 18 名、放射線技術科学専攻 12 名）（57%）の学生から調査協力を得た。調査結果は、本授業が役立つあるいは今後必要であるという肯定的評価とともに、学習目標への到達度と関わるコミュニケーションの難しさや大切さへの気づきがあった。このような結果から今後の課題は、1) 臨床経験のない学生に対しより多くの医療情報の提供を含めた演習の工夫、2) 模擬患者演習の時間や実演できる学生数の調整、3) 模擬患者演習からの体験学習を共有できる教育方法の検討、が取り上げられた。

Ⅶ おわりに

学生のことばを借りれば、コミュニケーション技術は「勉強したからといってすぐ上手になるものはないけど」であり、本授業の教育的効果を早急にとりだしていくことは難しい。教育計画の工夫やそれによる学生の変化を段階的に捉えていくことが今後必要と思われる。また、本授業はあくまでも医療職者としての基礎作りであり、三専攻の各領域に必要なコミュニケーション技術の学習

として成立していない。

このようなコミュニケーション授業がどのような学習効果をもたらすかについては、卒業後における影響も視野にいれ、今後捉えていきたい。

引用文献

- 1) Georgine Vroman et al: Misinterpreting Cognitive Decline in the Elderly; Blaming the Patient, in Human Error in Medicine, Marilyn Sue Bogner (eds), Lawrence Erlbaum Associate Pub., New Jersey, 93-122, 1994,
- 2) Howard B. Beckman and Kathryn M. Markakis et al: The Doctor-Patient Relationship and Malpractice, Arch Intern Med., 154: 1365-1370, 1994
- 3) Peter G. Northouse, Laurel L. Northouse: Health Communication (2ed), ヘルス・コミュニケーション, 信友浩一, 萩原明人訳, 九州大学出版会, 92 - 103, 1998
- 4) http://www.yomiuri.co.jp/iryuu/news_i/20040722sol3.htm, 医療ニュース
- 5) Donna R. Falvo: Effective Patient Education; A Guide to Increased Compliance, An Aspen Pub., Maryland, 1994
- 6) 北川かほる他: 看護としてのコミュニケーション技術の教育の動向, 日本看護学教育学会誌, 4(2): 32 - 33, 1994
- 7) 明智麻由美他: 看護基礎教育課程におけるコミュニケーション教育に関する研究, 日本看護研究学会雑誌, 20(3): 223, 1997
- 8) 大池美也子, 村田節子: 看護学生に対する模擬患者を用いたコミュニケーション技術教育の検討, 九州大学医療技術短期大学部紀要, 26: 67 - 72, 1999
- 9) 原田慶子, 池田紀子: 基礎看護学実習中のロールプレイ演習の効果—学生が話しを「聴く」ための教育—, 日本看護学会論文集第 32 回看護教育, 125 - 127, 2002
- 10) 細原正子他: 自己学習用看護 CAI 教材の評価—情意・認知領域における分析—, 香川県立医療短期大学紀要, 3: 99 - 106, 2002

- 11) 福本陽平他：医療面接における教員と模擬患者による学生評価について，医学教育，35(4)：229 - 234，2004
- 12) 宮本京子他：コミュニケーション技術基礎演習に関する検討，医学教育，32(5)：334 - 335，2001
- 13) 浦田秀子他：早期体験実習における対象理解と医療専門職の関わり－保健学科・医学科合同学習による学びの分析，日本看護科学学会学術集会講演集，23：338，2003
- 14) 平田美和他：ヘルスケアチームとしての連携・協働の実習教育の試み，埼玉県立大学紀要，4：145 - 150，2002
- 15) 半澤節子他：合同模擬演習に対する看護学生と医学生の捉え方の相違，長崎大学医学部保健学科紀要，15(1)：75 - 80，2002
- 16) 大滝純司：日本の看護教育への模擬患者導入の意義，看護展望，18(8)：897 - 899，1993

